

平成24年度 東京都教育会 役員総会記念講演 (要旨)

演題：『学力向上と授業の改善』

講師：東京学芸大学名誉教授 児島邦宏



はじめに

今日は、校長先生方の集まりである... 校長先生方の集まりである...

私の専門は、カリキュラム開発、マネジメント及び学校改善を中核とする「組織と文化」がテーマです...

今、教育現場の指導の在り方が気になっております。I、学習指導要領の改訂

(1) 新しい教育基本法の教育の目的が、学習指導要領に盛り込まれて... 例え、公共の精神。今の子どもたちには公が伝わってなく、私の部分が多くなっていて、公のルールの問題が抜けています...

(2) 学習指導要領の理念は、「生きる力」を継承しています。OECDは、世界中の子どもたちが身に付けておかなければならない力「キーコンピテンシー」(主要能力)を、「困難な世の中を生きていくためにどうしても必要な力」と唱えています...

ただし、今までやってきたことと同じで良いという訳ではありません。「生きる力」を引き継ぎながら深く捉え直していくことが重要であります。先ず、「生きる力」の中身について検討する必要があります。

① 自己の確立(主体性) 自己に関わることで、キャリア教育の充実が必要で...

② 他者との関係 少子高齢化にもなると、人間関係の希薄化が問題となっています。小学6年生の「実際の赤ちゃんを抱く」授業を参観したことがあります。男子児童が抱くと、赤ちゃんが泣いてむずがりが、女子児童が抱くと泣きやんでいました。男子児童は、赤ちゃんと接した経験がないので、うまく扱いが出来なかったのです...

③ 自然や社会との関係 環境問題、人権問題として捉えることが必要です。II、学力の問題 二項対立的学力観から脱却して構造的(総合的)学力観へ、考えが変わっています。新学習指導要領の学力モデルを図で示すと次のようになります。

習得→活用→探究と積み上げていく学力です。直線的ではなく、戻ることもあります。層的な学力観、重層的な学力観です。それらの土台と見えた絵を描きなさい」というと、描くことが出来ませんでした。「先生、教科書の絵は上からしか描いてありません」と言うので、「絵じゃなくて遊んだことではないのか?」と聞くと、「遊んだことではない」という答えでした。第2問目に「トンボの羽はなぜ4枚か?」としたら、「そんな馬鹿なこと考えたことない」と言うので、「これは考える問題ではなくて、トンボの前の羽や後の羽を取って飛ばしてみるとかして、遊んだことではないのか?」と言うと「そんなことをしたことがない」といいます。トンボは垂直運動と水平運動を同時にやるために羽が4枚必要なのです。第3問目は「チョウチョはひらひら飛ぶのに、同じような姿をした蛾はなぜ直線的に飛ぶのか?」学生は、また、「そんな馬鹿なこと考えたことない」という。それは、「チョウチョは昼間の生き物で蛾は夜間の生き物だから、蛾は夜の生き物だから、鳥にねらわれる心配がないから直線的に飛ぶんだ」と答えたなら、「どうしてそんなことが分かるんですか?」というので、「こういうのが科学的に推測する、科学的に考えるということなんだ」といっても、そういうことが分からないのが今の学生でした。与えられた情報をただ鵜呑みにするだけでは、その知識は身に付きません。

図 新学習指導要領の学力モデル

Table with 4 columns: 階層 (I, II, III), 内容 (e.g., 探究, 活用, 習得), 基礎 (e.g., 基礎的知識, 基礎的運動能力), 基層 (e.g., 言語, 体験).

例え、手紙を書くというIII層目の事をする場合、漢字を全てI層目の習得していなければなりません。ただし基層の「読み書きそろばん」抜きでは積み上げることは出来ません。(1) 習得型の授業 「学力学習状況調査」でA問題(習得型問題)は80点〜90点で全国的に余り差がありません。(中学校では少し差がありました。)

訂では、活用型の授業を実施の場... 活用も大事です。習得型の授業、活用型の授業とは、学習のタイプ...

習得でも活用でも、理解の仕方... 習得はただ覚えれば良いというものではなく、使えるようにしなければなりません。

III、学力向上の課題

子どもの生活の面が子どもの学力に影響しています。子どもの生活を考えないと、学力の向上・指導の改善に繋がりません。

(1) 文科省で実施した学力テストと... 子どもの生活とを対比した結果、早寝・早起き・朝摂食の子どもの方が成績が良かった結果が見られました。

夜遅くまで起きていて、朝食抜きで登校すると、脳へのエネルギーが不足して学習が出来ないと... 従って、1時間目に体育の授業、給食後に国語・算数という学校もあります。

(2) 学習習慣 家庭学習の有無で、大きく差が出てきます。明治以来の伝統に、小学校では学年×10分、1年生は10分、6年生は60分の家庭学習(宿題)。地域によっては学年×15分もあります。毎日少しずつ努力する事が大切です。学校の出来事を親に話す子、学校のルールを守る子も学力が向上します。

(3) 体験 生活の変化と関連して、体験的学習が課題です。間接的体験は豊富ですが、直接的体験が不足しています。特に、昭和40年代からの少子化の時代、それまで屋外で群れて遊んでいた子どもたちが、子ども部屋を与えられ、一人遊びのおもちゃ(合体型、怪獣、リカちゃん)やゲーム、スナック菓子、缶入りジュース等、自分の部屋で一人で過ごせるようになって、直接体験が少なくなりました。体験がないために子どもに学びの手立てがありません。教科書に書いてあることを暗記する以外に学びの手立てがないのです。以前、大学に入ってきた1年生に紙を渡して、「トンボを下から

(4) 教師に必要なこと

① 子どもの理解が必要で... 観察・解釈・診断・手立てを考えることが重要で...

② 習得力(活用力)を高める授業の工夫が益々重要となっており、子どもが自ら考えるようにし... 小学校では、個々の児童の学び方の個性に合わせたきめ細かな指導も大切であるが、学級としての学び合う風土の形成も重要で...